一、披露　明治卅八年三月發行本誌

一、賞品　天地人三座には美景を呈す

一、撰者　當分本會の撰とす

一、投稿　本誌講讀者は何人にても投吟する事を得用紙は繪葉書（眞筆刷物隨意）に限る、住所氏名雅號を明記し必らず左の名宛にて送らるべし。

埼玉縣入間郡芳野村

フレーベル會俳句掛

鹽野奇零宛

第六回俳句端書集

万歳や鼓の音の幾間越し　長野　飯塚　曉霞

爭ひも來ては笑ひぬ歌がるた　同

陣中に餅も配りて今朝の春　陸奥　花松　曉星

正月や遊び暮して日の足りぬ　同

海戰の跡も靜かに初日の出　同

元朝や見心廣き海と山　平岩　學洋

何事もせずに忙がし三ケ日　同

羽織着た人も積込む初荷かな　同

初空や尾上の松に鶴の聲　埼玉　帶白園一甫

魁の花なり香なり福壽草　同

軍國の咄しを先や禮者人　同

二三輪書齋の窓に梅の花　岩崎　一樂

旅にして初日迎ひぬ蜑が家　黑田　一葉

渡船場につなぎし船や松飾　同

夜は松の上から明けて初烏　大分　阿部　きく

初東風や出舟の競ふ港口　神田　松本　のり

この儘に置ても見たし門飾り　堺　原田　紫水

着ぶくれて元日さりや小百姓　福岡　遠藤　眞月

拍手の音いさぎよし初日出　大阪　松風庵

雪ながら富士は春立つ姿哉　埼玉　淑齋　睦明
目に古き物とてはなし今朝の春　同
叱られた門を御慶の始めかな　同
影膳に屠蘇を捧げて今朝の春　東京　久米　辰子
片耳は去年のまゝなり初烏　同
斧知らぬ畝傍の山や初日出　同
日の丸の亦も勝利やからめ凧　同
遊ぶ日を子に問はれけり初暦　神田　山田　てふ
御降や相手のはしき小酒盛　同
初夢や夢では惜しき事斗り　同
おのづから春立つ門の往來かな　京都　町田　せん
米焚くや樽の山家も今朝の春　同
同じ事云ふて過ぎけり三ケ日　羽前　松友　舍
大福や一と間は梅の香にとゞまる　尾張　一二三
一人寐の夢美くしや寶船　同

年々に株の殖えけり福壽草　内藤　清堂
屠蘇くむや人に聞かれてよい話　同
來合せて聞き人になりぬ謠初　神奈川　俳狂生
門松の曙作る街かな　同
片言に出來て嬉しき御慶かな　帶津　帶水
万歳の一人目立つや夕わたし　同
暮かゝる空に賑はし羽子の音　川越　根岸　廣吉
引すぎて尻餅つくや小松引　川越　田村　十一

三光

天、三郎も泣かで起きけり今朝の春　山田　てふ
地、本家へも改めて行く御慶かな　帶白園一甫
人、墨痕はかるたにまけて屠蘇の顏　岩崎　一樂

追加　無一庵　鹽野　奇零

動きなき富士の高嶺や初日の出
軍國の光りも高し初日の出

初空や戰捷國の旭の光り
井戸端で御慶申しぬ裏長屋
年玉や年々殖える得意先
破魔弓ややがて御國の名取草
九重に鶴一と聲や初日の出

ハイクヲ ツノル

ミナサン ワタシワ キゲンセツノ オユワイニ ハイクヲ ツノリマスカラ ゴサンセイノオカタワ ドーカ オクッテ クダサイテンチ ジンノ 三メイニ ピケイヲ アゲマス

一、カダイ サクラ、ツバメ、キゲンセツ、
一、シメキリ 一ガツ バツジツ カギリ
一、ヒロー 二ガツ モシクワ 三ガツノ ホンシノ ヨハクヲ カリテ
一、エラブヒト ラクテンドー ガクヨー
一、トヾケショ トーキョーシ コイシカワク トーキョー モーア ガツコー ウチ ヒライソガクヨー アテノ コト
一、コノホカノ コトワ フレーベルカイ ハイクキテイニ スコシモ カワラナイ

白菊

（甲府市魚町小林靜軒方すみれ會詩稿）

跡部さと子

あらしさわぐ高ねも晴れてふもとぢのむら霧わたるその朝ぼらけ

鶴丸千代子

一本の白菊いつか匂ひつゝ袖にかつちる有明の月

手折らむと足つまだてし少女子の玉手はづれて散